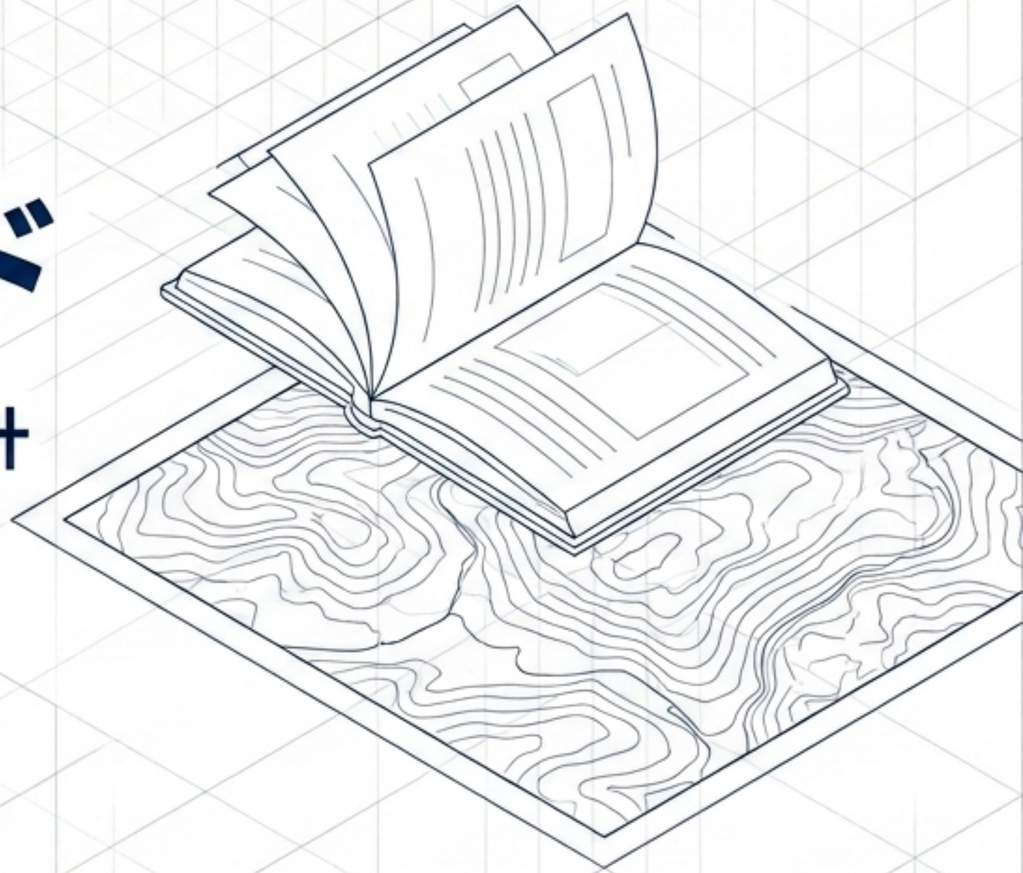
命を守るための「知る・備える・動く」

平川市
防災アクションガイド

台風19号の教訓から学ぶ、これからの安全設計



市議会一般質問から読み解く

ターゲット：全市民

Gemini Notebook

これまでの「常識」が通用しない時代

台風19号の爪痕

犠牲者：98名



堤防決壊：71河川・140箇所



住宅被害：9万棟超



なぜ多くの方が逃げ遅れたのか？

1. 浸水想定外のエリアでの被災



2. 犠牲者の多くが65歳以上の高齢者



3. 自宅待機中や車での避難中の水没



「想定外」をなくすため、平川市の防災基準は根本から見直されました。

Gemini Notebook

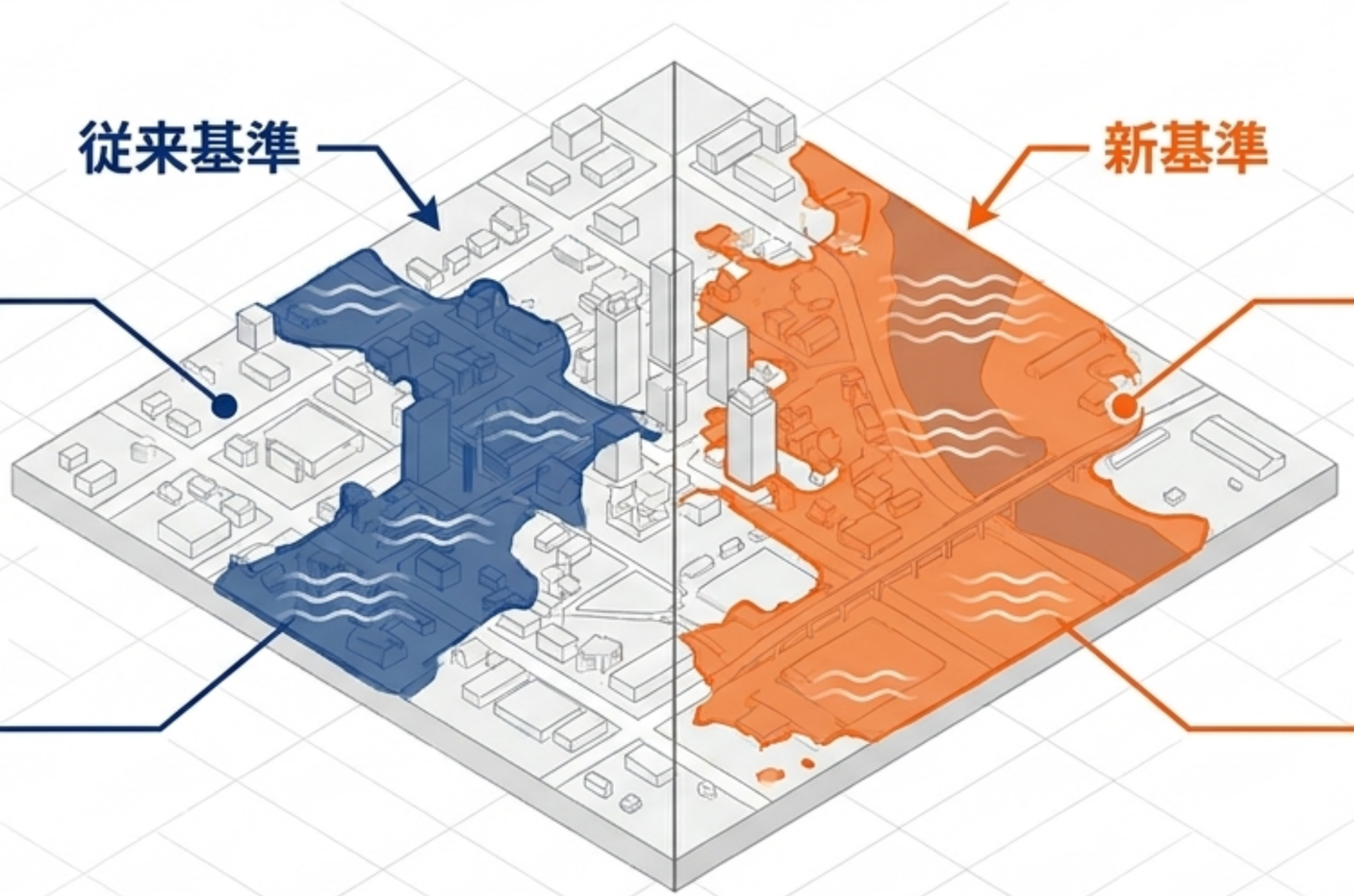
新基準：平川市の水害リスクは「約2倍」に拡大

従来基準

降雨量想定：
210mm / 24時間

発生確率：
40年に1度

浸水想定面積：
1,643ha



新基準

降雨量想定：
330mm / 24時間

発生確率：
1,000年に1度

浸水想定面積：
3,661ha

※水防法改正に基づく岩木川水系平川・腰巻川の新たな解析（25mメッシュの高精度計算）結果です。

Gemini Notebook

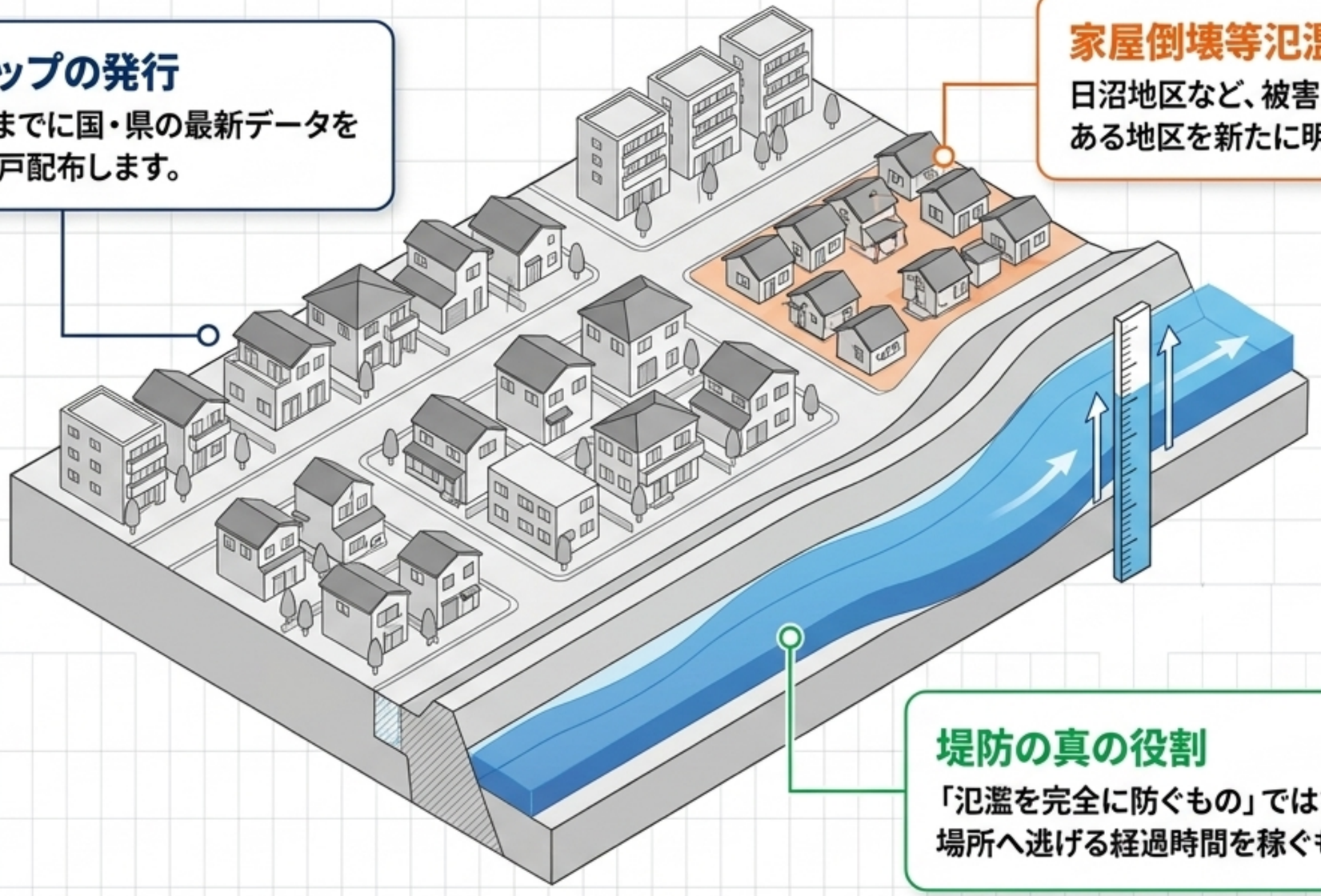
進化するハザードマップ：「避難する時間」を稼ぐツールへ

新ハザードマップの発行

来年度、台風時期までに国・県の最新データを統合した新版を全戸配布します。

家屋倒壊等氾濫想定区域の追加

日沼地区など、被害が顕著となるおそれがある地区を新たに明示。



堤防の真の役割

「氾濫を完全に防ぐもの」ではなく、「住民が安全な場所へ逃げる経過時間を稼ぐもの」です。

Gemini Notebook

防災行政無線「だけ」に頼れない理由

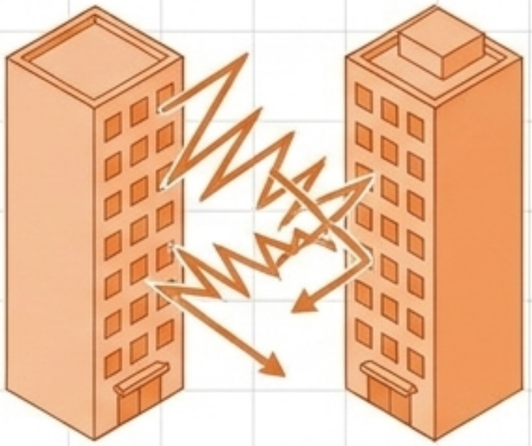
無線の強み



市内全域へ一斉に情報伝達が可能

無線の弱点





弱点1：暴風雨による遮断
窓を閉め切った屋内や激しい雨音の中では聞こえません。

弱点2：反響問題
一部の地域では音が反響し、内容が聞き取れないケースがあります。

弱点3：運用時間の制限
通常放送は午前6時から午後7時までに制限されています。

だからこそ、「情報の多重化（複数の受け取り手段）」が必須です。

Gemini Notebook

【比較】あなたに必要な情報ツールは？



登録制メールは現在約500件の登録にとどまっています。詳細な情報を自動で受け取れる最強のツールです。今すぐ登録を。

Gemini Notebook

【時系列】発災から復旧まで、使えるツールは変化する





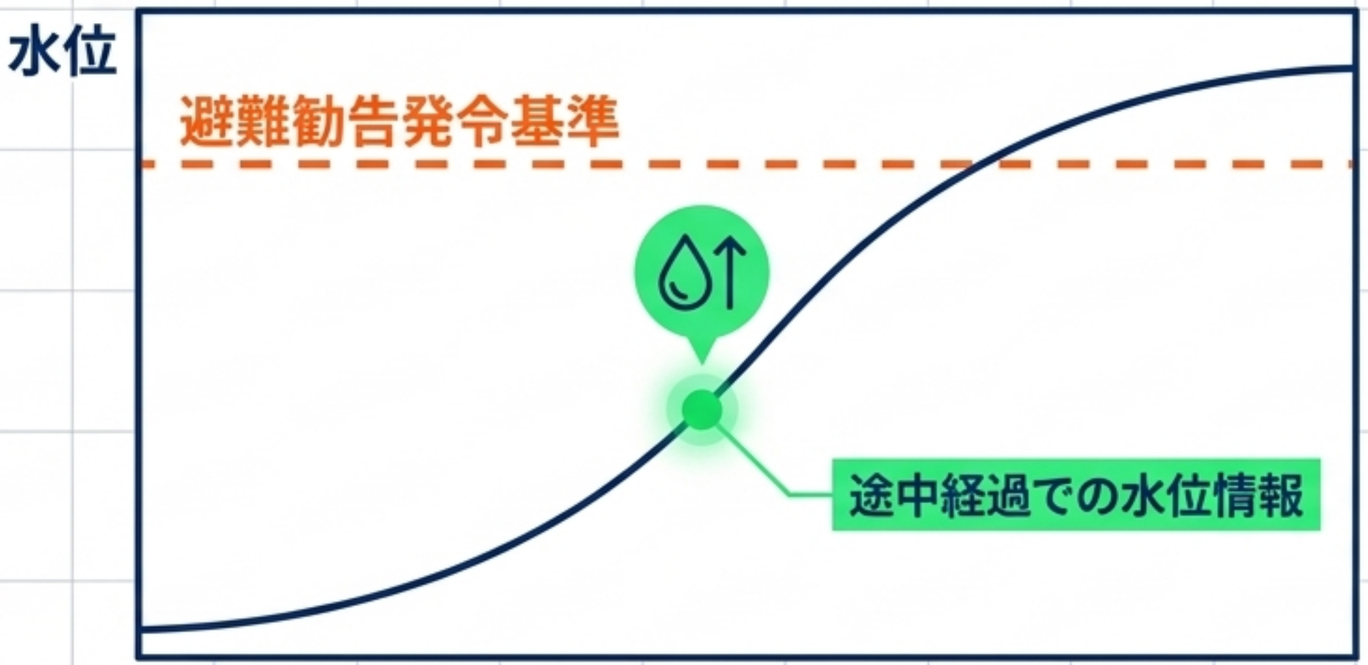


	Phase 1: 発災前（通常電源）	Phase 2: 発災直後〜応急対応（停電・通信輻輳リスク）	Phase 3: 復旧・被災者支援（通常電源復帰）
緊急速報メール	Highly Effective	Offline	Offline
HP / SNS	Highly Effective	Functional (Limited)	Highly Effective
コミュニティ放送/ラジオ	Highly Effective	Highly Effective (Battery)	Highly Effective

災害直後は「緊急速報メール」は機能しません。停電に強い「電池式ラジオ」と、復旧期の詳細情報に強い「HP/登録制メール」の組み合わせが命綱です。

Gemini Notebook

アクション：勧告を待たず、自ら「水位情報」を掴む



行政の判断基準

市は降雨予測や県からの警報を総合的に判断し、勧告を発令します。

市民の最適解

危険水位に達する前の「途中経過」の段階で情報をキャッチし、明るいうちに避難を開始する。

Gemini Notebook

災害弱者を「誰一人取り残さない」支援体制



避難行動要支援者名簿：
登録者 1,014名

自主防災組織・町会

民生委員・児童委員

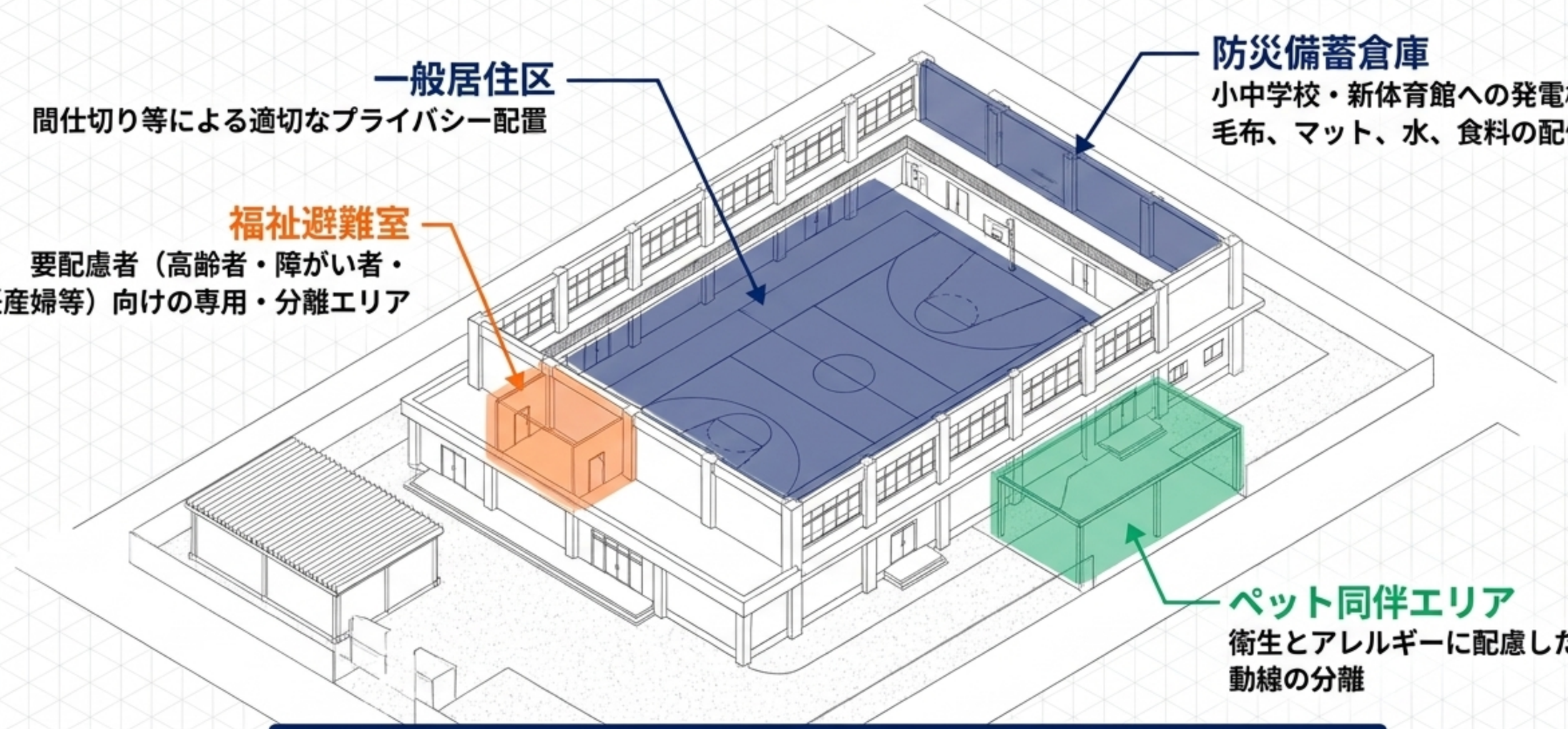
社会福祉協議会

消防団・警察

平時の見守りと、災害時の安否確認・避難支援を地域全体で共有するスキームが稼働しています。

Gemini Notebook

【見取り図】進化する避難所のレイアウト



一般居住区
間仕切り等による適切なプライバシー配置

福祉避難室
要配慮者（高齢者・障がい者・妊産婦等）向けの専用・分離エリア

防災備蓄倉庫
小中学校・新体育館への発電機、毛布、マット、水、食料の配備完了

ペット同伴エリア
衛生とアレルギーに配慮した動線の分離

市の「避難所運営マニュアル」に基づき、
多様なニーズに応えるゾーニングが事前に設計されています。

Gemini Notebook

避難所と地域を守る「共助」の新しいカタチ



車椅子の高齢者をどう逃がすか？数人で窓から運び出す具体的な「個別避難計画」の作成。

災害発生と同時に、近所の若手が要配慮者の自宅へ駆けつけるルールの徹底。

市のマニュアルを土台に、各地区の実情に合わせた「町会独自の実務指針」の作成が急務です。

Gemini Notebook

究極のバックアップ：通信網が全滅した時の備え

最悪のシナリオ



- 大地震等による大規模停電・基地局の被災
- 防災無線もスマホも機能しない状態

臨時災害放送局



- 青森県を通じた民間事業者との災害協定
- 速やかに「臨時ラジオ局」を開設・要請するスキームを確立済み

いざという時、最後に頼れるのは「乾電池式の携帯ラジオ」です。各家庭での備蓄をお願いします。

Gemini Notebook

今すぐできる、3つの安全設計アクション

1 知る – ハザードマップで「逃げる時間」を確認する。



日沼地区など新基準の対象エリアは特に自宅の浸水リスクの再確認を。

2 備える – 平川市の「登録制メール」に今すぐ登録する。



詳細な水位情報や避難所情報を自動受信するため、現在500名の登録者を全市民へ。

3 動く – 地域の「自主防災組織・町会」との繋がりを持つ。



あなたがいざという時に助け、助けられる関係性が最大の防災インフラです。

Gemini Notebook